

2022年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 研究課題 | 介護福祉士を目指す学生における生理用品を用いたケアの教育方法 |
| キーワード | ① 介護福祉士養成教育、② 生理用品を用いたケア、③ 利用者の尊厳 |

研究者の所属・氏名等

| | |
|-----------------------------|---|
| フリガナ 氏名 | アイバ メグミ 相場 恵 |
| 配付時の所属先・職位等 (令和4年4月1日現在) | 東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科 講師 |
| 現在の所属先・職位等 (令和5年7月1日現在) | 東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科 講師 |
| プロフィール | 介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員 福祉施設に勤務後、2年課程介護福祉士養成施設（専門学校）専任教員となる。教員職と並行して通信制大学院修士課程を修了（社会福祉学）。2018年より現職。利用者のライフステージを意識した支援ができる介護福祉士の養成教育・研究をしている。併せて2011年より、EPA 経済連携協定外国人介護福祉士候補者の学習支援事業にも携わっており、介護福祉士を目指す外国人へ向けての教材作成や研修講義などの活動も行っている。 |

1. 研究の概要

介護福祉士養成教育の中に生理用品を用いたケアを導入するため、ケアを受ける側の利用者とケアをしている家族や介護職員の意見を聴取した。さらに、介護福祉士養成教育を受ける側の学生はどのように生理用品を用いたケアについて考えるのかを把握するためにディスカッションや技術の検討を行った。

利用者、家族、介護職員からは対面によるアンケート調査と内容を補完するためのインタビューを実施した。利用者には【1回の生理期間】【普段使用している生理用品とその理由】【生理用品を選ぶ基準】【生理用品を交換する人】など、16の質問を設定し回答を得た。家族、介護職員には、【利用者の生理用品を選ぶ基準】【生理用品について本人にどのように教えているか】【生理用品を用いたケアを行っていて困っていること】など12項目の質問を設定し回答を得た。

学生とのディスカッションの結果、【多様な生理用品に触れてみて感じたこと】、【介護を必要とする人に生理用品を用いたケアを導入するにはどうしたらよいか】についての考えを知ることができた。さらに、生理用品を用いたケアの検討の際には、4つの障害像を設定した。必要物品、介助手順についてワークシートに記入しながら検討を行った。検討した内容に沿って実技を展開し動画撮影を実施した。その動画を参考に再度介助手順の修正を行った。現在も研究継続中である。

2. 研究の動機、目的

「なぜ、生理については触れられていないのか」

介護福祉士養成教育の「生活支援技術」という介護技術や生活支援の方法を教授する科目がある。その中の「排泄介助」の単位ではおむつ交換の際やトイレ介助といった排泄に関する技

術を教授する。介護福祉士を養成する大学などが使用している中央法規出版の「最新介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ（2019）」のテキストに記載されている「おむつでの排泄介助」の単元では、おむつの種類や陰部洗浄、陰部清拭、おむつの付け方外し方について絵なども入れ込み5ページにわたり介助手順や留意点や根拠についての記述がある。しかし、生理についての記述はない。介護福祉士が働く場には、障害者の介護現場も含まれる。つまり、女性障害者のケアの中に生理時の対応も含まれることが想定される。現在、生理用品も多種多様なものが発売されており、介護福祉士自身の経験レベルでは本当に利用者が望んでいるケアをすることは難しいのではないかと考えている。

本研究では、どのような生理用品を用いたケアをしていくべきかについて、利用者（介護を受ける人）、家族・介護職員（介護をする人）、学生（教育を受け介護福祉職に就く予定の人）の3者の考えを知り、介護福祉士養成教育の中に生理用品を用いたケアを入れる場合、どのような教育方法が良いのかを検討し、教育方法を提案することを目的とした。

※本研究では、月経を「生理」という表現で統一した。

3. 研究の結果

研究協力者 学生 6名、利用者 6名、家族 3名、介護職員 8名

倫理的配慮 本研究を行うにあたり、東北福祉大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。回答は任意であり、調査の趣旨を文書・口頭で説明をした。なお、調査途中でも同意書を撤回し回答を中止できることを明記した。

①生理用品についての調査（研究者が実施）

国内で発売されている生理用品の中から「月経カップ」3種類、「タンポン」4種類、「布ナプキン」3種類、「体につけるナプキン」1種類、「ショーツ型ナプキン」2種類、「過多月経用ナプキン」1種類、「紙ナプキン(夜用)」4種類、「紙ナプキン(昼用)」3種類、「コットンの紙ナプキン(昼用)」1種類、「コットンの紙ナプキン(夜用)」1種類、「おりもの専用シート」1種類 計24種類を購入した。購入した生理用品の商品名/メーカー/サイズ/素材/特徴/手入れの方法/注意事項を表にまとめた。次に、経血の代わりになるもの作成し、生理用品に吸収させ、吸収量や肌に接した場合の感触を動画にて記録し、各生理用品の特徴を把握した。

②学生とのディスカッション

学生協力者の募集は男女問わず募集したが6名全員女性であった。研究者が購入した生理用品特性を理解してもらうために触れてもらいながら、介護を要する人が使用する場合の課題について学生とディスカッションを実施した。

障がいがある人が使いやすい生理用品として「紙ナプキン(昼用)」「紙ナプキン(夜用)」「タンポン」が挙げられた。その理由として、「タンポンは上肢に障害がある人が自分で着脱するのには向いていないが、1度つければ長時間持つことや、ナプキンに比べて漏れの心配が少ないことから、介助をすれば使用しやすい商品であると感じた。」「夜用ナプキン・昼用ナプキンについては、介護される場合、陰部に直接触れられる心配が少ないため、着脱時の不快感がなくて済むのではないかと感じた。」「尿も経血も吸い取ることが出来るパットがあればわざわざ併用しなくても良いのでは無いかと考えたが、血尿との見分けができず、病気にかかっていることに気づけない可能性があることも考えると併用することが安全だと感じた。」といった意見があった。

介護者が使用しやすい生理用品として、「紙ナプキン(昼用)」「紙ナプキン(夜用)」「ショーツ型ナプキン」が挙げられた。その理由として、「ショーツ型のナプキンであればパットのずれによる漏れや多い日特有の不安感の軽減にもつながる。また、外すときには横の部分を取



写真1 月経カップの検証



写真2 ディスカッション

くことができ、そのまま捨てることができるので、洗う手間も省けると感じた。」「紙ナプキンであれば、尿取りパッドと構造が似ているため、着脱に慣れている人が多いと感じた。」

「自分でさえも月経カップやタンポンをどう付けるのか分からないのに、それを利用者につけるまたは介助をさせていただくと考えると、難しいと感じた。」「介護者が月経カップやタンポンを挿入するまでの間、不快感や恥ずかしいという気持ちを持つ利用者もいるはずである。ナプキンやおりものシートであればパンツに付けるだけだが、位置やパンツを上げた時に折り曲がったところがないか、不快感はないかなどの確認は必ずとらなくてはならない」

「ショーツ型のナプキンであればパットのずれによる漏れや多い日特有の不安感の軽減にもつながる。また、外すときには横の部分を破くことができ、そのまま捨てることができるので、洗う手間も省けると感じた。」「夜用ナプキンは介護者も使い慣れているものであるし、長時間使用することができるため、使用しやすいのではないかと感じた。」と意見があった。

ディスカッションの結果をふまえ、利用者・家族・介護職員への調査の際に持参する生理用品として「紙ナプキン(昼用)」「紙ナプキン(夜用)」「コットンの紙ナプキン(昼用)」「ショーツ型ナプキン」「布ナプキン」「体につけるナプキン」「タンポン」「月経カップ」の中で各1種類を選定することで決定した。

③生理用品を用いたケアについて、利用者・家族・介護職員への調査

施設・事業所を利用している女性障害者と家族、介護職員に協力を依頼し、生理用品に関するケアについてのアンケートを対面にて実施した。アンケートを補完するためにインタビューも実施した。今回、アンケートに協力してもらう利用者は、自分の意思で回答可能な人とした。生理用品を持参し、実物に触れてもらい概要を説明しながら回答をいただいた。家族については、3名とも「母親」、介護職員については8名とも「女性」である。今回は、アンケート結果の中から自由記述の一部について記載する。

利用者のアンケート結果

生理用品についてのケアについての意見を伺うと「もっと早く知りたかった。」「いつも使い慣れたものを使っている。」「徐々に新しいものも試してみたい。」「ナプキン買いたいけど高い。」「他の人に生理のこと言いたいけど恥ずかしい。」「施設で男性にみられてしまったときがあつて恥ずかしかった。」「弟と買い物するときに『何買うの?』と言われたとき恥ずかしい。」「生理ノートをつけて管理している」「他の人から生理のことをあまり聞いたことがないからわからない。」「目が見えないため生理が来たときは、においと出た感覚で把握した。」という回答があった。

家族のアンケート結果

生理用品のケアを行っていて困っていることについては、「身体機能低下によって生理用品を変えてきた」「あまり交換しないためナプキンを重ねてつけていること」という回答があった。生理用品を用いたケアについての意見については、「ショーツ型ナプキンが発売になってよかった」「いろいろな生理用品が出ているが使い慣れているものを使ってしまう」「使い方がわかれば使ったことのない生理用品も試してみたい」「生理用品の使い方を障害者向けに教えてほしい」という回答があった。

介護職員のアンケート結果

生理用品のケアを行っていて困っていることとしては、「ナプキンを使用する時に股関節が開かずナプキンが埋もれてしまうことがある」「下半身の緊張がある場合、足が絡まっている場合パンツなどを履かせづらい」「ナプキンがずれていても違和感があってもSOSサインがない」「入浴時などは血が流れるので湯舟には入れない」という回答があった。

生理用品を使ったケアについての意見については、「おむつ使用者には生理用品は不要」「おむつの中で排泄物と経血のにおいが混ざる」「生理用品購入時の経済的負担」「新しい生理用品を選択するには利用者の安全に配慮する必要がある」「デリケートな問題であるから利用者の気持ちを考えた対応が必要」「生理用品の選択肢を提示していくためにも教育が必要」「男女区別せずに使い方や介助方法を教育してほしい」「体内に挿入する生理用品の活用は難しい」という回答があった。

④障害に応じた生理用品の活用についての検討

研究協力者の学生とともに、学内の介護実習室で人体模型もしくはモデル役（研究協力者）

に生理用品をつけ、下記の障害像を設定した生理用品交換の技術の検討を行った。

- 1) 上肢機能障害のある人の生理用品を用いたケア
- 2) 下肢機能障害のある人の生理用品を用いたケア
- 3) 上下肢機能障害のある人の生理用品を用いたケア
- 4) 発達障害者・知的障害者の生理用品を用いたケア

留意事項

- ・モデル役は薄手の服を着用し、その上から生理用品を装着
- ・トイレでの交換場面、おむつとの併用などを試みた。
- ・感染症対策を行った。

場面設定

- ・人体模型もしくはモデル役（研究協力者）に患側（動きづらい、もしくは麻痺をしている）をテープなどで固定し自由に四肢を動かすことができない状況を設定した。
- ・歩行できる人、車いす使用者など使用している福祉用具の違いも考慮し、生理用品の違いがある状況を設定した。
- ・トイレを使用している場合は、トイレに移動を開始するところから始めた。
- ・ベッド上でおむつを交換する場合は、おむつの交換のタイミングから始めた。
- ・介助している様子をビデオで撮影した。
- ・撮影した動画を一動作ごとに区切り、区切った動画を観ながら介助手順を言語化した。
- ・言語化したものに沿って介助手順を再確認し、介助を行った。その際、再度動画を撮影した。

現在、介助に使用する生理用品と利用者の体への負担や介助手順についてさらに検討をすすめているところである。



4. 研究者としてのこれからの展望

介護を必要とする人のQOLの向上と、介護福祉士を目指す学生が介護現場で多様なニーズに対応できるような教育内容の充実を目指したいと思います。そのためにも本研究を発展させて、介護福祉士養成教育用の教材作成や誰にでもわかりやすいような生理に関するケアの資料や動画を作成し啓発をしていきたいと思っています。常に「利用者本位」を忘れることなく研鑽していきたいと思っています。

5. 支援者（寄付企業等や社会一般）等へのメッセージ

介護福祉士養成教育、障害者への生理用品を用いたケアということに関心を寄せていただき、若手・女性研究者奨励金に採択していただけたこと、大変うれしく思います。

そして、日本私立学校振興・共済事業団にご寄付していただいた支援者の皆様に感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、研究協力者のご自宅や施設への訪問が何度も延期になりました。調査の中止を考えたこともありましたが、研究協力者が「今なら来ていただいても大丈夫です。」など、時間を作ってください研究を続けることができました。実際に生理用品を手にしながら対面で研究協力者と話ことができました。研究協力者の皆様にも深く感謝申し上げます。

介護を必要とするすべての人の生活に関心を持っていただけるとありがたいです。

本研究の結果をもとにさらに研究を発展させ、介護福祉士養成教育や介護を必要とするすべての人の生活支援に寄与できるよう努めてまいります。

このたびは、本当にありがとうございました。